

大分大学におけるアクティブラーニングの視点にもとづいた授業のガイドライン

大分大学では、読解、作文、発表、討論、問題解決、創造などの学生の活動への関与があり、それらで生じる認知プロセスの外化を伴っている授業を、アクティブラーニングの視点にもとづいた授業とします。学生が自ら計画して学習に取り組み、省察して次の学びにつなげていく過程を実現する「主体的な学び」、他者との協働や外界との相互作用を通じて考えを発展させる「対話的な学び」、学んだ知識を活かして問題発見・解決や創造を行う「深い学び」の視点から、授業やカリキュラムを改善することを推奨します。アクティブラーニングの視点にもとづいた授業で行われる学習は、主に以下の4つの組み合わせとします。

1. 知識の定着・確認

知識の定着およびそれらを確認する、主に個の学習

2. 意見の表現・交換

知識や意見等を表現し、発表したり交換したりする他者との協働や相互作用のある学習

3. 応用志向

知識やスキルを現実で起こりそうな状況に応用したり、問題発見・解決したりする、主に教室等内での学習

4. 知識の活用・創造

知識やスキルを現場等で活用し省察する学習や、創造的な学習